

**都 々 逸**

宜しくと 伝えて欲しい あの方ひとり 皆々様とは世間体

誰がお好きと 朝日に聞けば 私と一緒に起きる人

**慣用句の語源 【おはちが回ってくる】**

人事というのは、ひよんなことで決まることもある。次期社長候補として予定されていた専務が女性問題で失脚。ナンバー3の常務に「おはちが回ってくる」ということもある。

この「おはち」最近では見かけなくなったが、ご飯を入れる「お鉢」のこと。

つい最近までの永田町のゴタゴタで次から次へと首相が変わり、まさに「おはちがまわってくる」首相の座はそんなに軽いものではなかったのだが。

**経済の時間 【国民負担率】**

国税と地方税を合わせた租税負担に、医療保険や年金などの社会保障負担を合わせ、その合計を国民所得で割った比率。

**落語のあらすじ 【時そば】**

夜鷹そばを食べに来た男が、やたらにほめちぎったあげく、勘定のときには小銭で払いながら時刻を聞いて、うまく一文ごまかした。これを見ていたぼうっとした男が自分もやってみようと、明くる日、小銭を用意して、そば屋を呼び止める。

**江戸こぼなし 【腐っても鯛】**

長屋の住人木落猿右衛門は、貧相なりをしているくせに、態度の横柄さが眼についてどうにも感じが悪いので、ある日、大家が呼び止めて、「貴方さまの日頃の様子を見てみると、態度の大きいのが気になって感じが悪い。なるほど、昔は二百石取りの立派なお武家様だったかも知れないが、昔は昔、今は今、何の役にも立ちませぬ。今日からは、裏長屋の住人らしく、なんによらず控え目に振る舞いなさるがよい」とたしなめると、浪人恐縮して、「ご忠告かたじけないが拙者としても、特別横柄に振る舞うつもりはないのだが、せめてこの程度の横柄さを保たぬと、乞食と間違えられそうな気がするのではな」（一石…一人が一年間食べる米の量）

**数学の時間**

水が一定の割合でわき出る井戸がある。この井戸からポンプを使って水をくみ上げるのに、毎分25ℓずつくみ上げると水は20分でなくなり、毎分30ℓずつくみあげると水は15分でなくなる。毎分35ℓずつくみ上げると、水は何分でなくなるか？

**数学の時間・・・答え**

45号の答え……8年後

(54-22)÷4=8

## 歴史への招待

【長谷堂城の戦い】 最上義光：上杉景勝

山形城の最上義光は上杉景勝と結んでいたが、家康が会津征伐に向かった頃から景勝と手を切り、家康陣営に入った。これを怒った景勝が直江兼統に命じて最上氏を攻めたのが東北版関ヶ原の戦いである。

直江兼統の大軍が長谷堂城を囲んだのが関ヶ原の戦いと同じ九月一五日。山形城の支城ながら長谷堂城は容易に落ちず、関ヶ原の西軍敗北の報が伝わり兼統軍が撤退した。

## サラリーマン川柳

- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 1 オレオレと 昔サッカー 今は金    | 6 意識して とぼけていたのに と、がとれて |
| 2 なぜだろう 昔同期で 今上司     | 7 振り向くな 後ろ姿の 君が好き      |
| 3 常識を へーと驚く ただの無知    | 8 席どうぞ 私は妊婦じゃ ありません    |
| 4 効率化 進めた私 送別会       | 9 回らない 寿司もあるのと 聞く息子    |
| 5 飲み放題 気がつきゃタクシー 一万円 | 10 ストレスの 元が君とは言えぬ僕     |

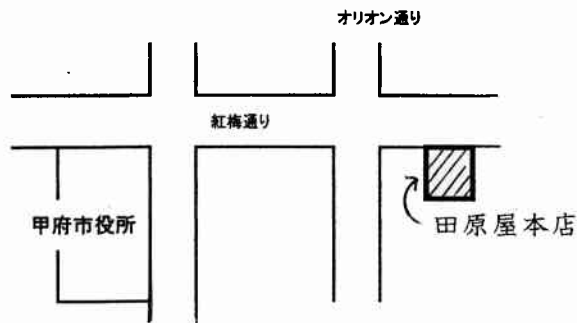
## 古典の時間

作品と作者を結んで下さい

## おいしい「とんかつ」のお店

- |          |         |
|----------|---------|
| 更級日記・    | ・藤原道綱の母 |
| 源氏物語・    | ・松尾芭蕉   |
| 奥の細道・    | ・吉田兼好   |
| 枕草子・     | ・近松門左衛門 |
| 徒然草・     | ・紫式部    |
| 好色一代男・   | ・十返舎一九  |
| 曾根崎心中・   | ・清少納言   |
| 東海道中膝栗毛・ | ・紀貫之    |
| 土佐日記・    | ・井原西鶴   |
| 蜻蛉日記・    | ・藤原為経   |
| 今鏡・      | ・菅原孝標女  |
| 方丈記・     | ・世阿弥    |
| 風姿花伝・    | ・鴨長明    |
| 歎異抄・     | ・唯円     |
| 世間胸算用・   | ・井原西鶴   |
| 雨月物語・    | ・上田秋成   |
| 南総里見八犬伝・ | ・曲亭馬琴   |

【山梨県 甲府市編】



## 江戸のことわざ

【鰻に梅干し】

同時に食べると体に害になるとされる「食い合わせ」の一つである。

唐代の医書に記され、戦国時代の曲直瀬道三が『宣禁本草』に取り上げられ広く流布した。江戸時代には、貝原益軒が『養生訓』で食い合わせ禁忌を沢山示した。

基本的には、「好物に崇りなし」……

## お知らせ

お読み戴いています『かわらばん ナカニワ』そして他にも少々……  
当社ホームページに載っております。是非ご覧下さい。

<http://www.nakaniwa-cons.co.jp>